



欧州人のつぶやき

日本投資者保護基金
理事長

大久保良夫

山国スイスにはこんな神話があるそうだ。神さまは喧嘩ばかりしているヨーロッパの真ん中に資源も何もない国を作ってしまったことに気がついて大いに同情し、魅力的な山々を作った。スイス人は恭しく感謝したが山だけでは生活しにくいと不満を述べた。そこで神さまは湖をいくつか作った。スイス人はそれでも満足しないので豊かな牧草地を作った。だがまだ不服そうなので、牧草地に雌牛をあたえた。雌牛は沢山の乳を出し、美味しいチーズも出来た。スイス人は大いに喜んだが、神さまは疲れてしまって、額の汗を拭いながら、ミルクを一杯欲しいと所望した。スイス人は言った。「いいですとも。取り立てのミルク、2フランいただきます。」(F. ルイス「ヨーロッパ―民族のモザイク」)

一見ユーモアとは無縁そうなスイス人も、案外人間的で面白い。私は四半世紀も前に金融交渉でジュネーブに一年ほど滞在する機会があったが、美しい山々の景色とともに、時々欧州人のつぶやきを思い出して、その観察に温かい人間性と貴重な知恵を感じている。

ある夕方、飛行機でジュネーブに帰るとき、窓から夕陽に照らされたモンブランがいかにも美しく見えた。隣席のスイス人も息を飲んで見つめている。「美しい！しかし、残念ながら、あれはフランスなんだ！」確かに、モンブランはフランスとイタリアの国境に位置し、スイスの山ではない。「でも、タダで見られるからいいでしょう？」と言ったら、ニンマリと笑った。



▲ジュネーブ郊外にて

山や川は国境も作るが、国境はしばしば民族や言語のまとまりを分断し、紛争の種を作っている。しかし、多言語の民族も一つの「国」や「連邦」を作って何とか運営しているのが欧州人だ。スイス人に「スイスの議会では何語で議論しているのか。」と聞いてみたら、「議員になるような人は皆、独、仏、伊語ができる。議員は出身地域の言葉で話し、他の議員はそれを理解している。理解していない議員は理解している振りをしているよ！」笑ってしまったが、真面目な知恵に違いない。

1999年に共通通貨ユーロが発足し、揉めていたイタリアの参加も決まった。その頃イタリア中銀の友人に「一番喜んだのは誰だと思う？」と聞かれたので「中銀総裁？」と答えたら、「違う。私の母だよ。」という。怪訝な顔をしていると、「『これで戦争がない！』と言うんだ。」とのこと。共通通貨ユーロには平和への知恵も込められているのだろう。